The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	パネルディスカッション「学術情報流通の未来 : 出版社、利用者の語る10 年後」次世代OPACから連携の枠組みへの期待
Author(s)	久保山, 健
Citation	
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/14103
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

パネルディスカッション 「学術情報流通の未来
ー出版社、利用者の語る10 年後」

次世代OPACから連携の枠組みへの期待

久保山　健 (KUBOYAMA Takeshi)
大阪大学 情報推進部 情報基盤課 (図書館システム担当)

<June 24, 2009>

第5回学術情報ソリューションセミナー

会場: ヒルトンプラザ ウエスト8F(大阪)

大阪大學

(C) 久保山健, 2009

本日の骨子

1. 自己紹介
2. 次世代OPACって?
3. 海外事例
4. 国内事例、検討状況
5. ベンダー、代理店、図書館の連携
   ↑<これがメイン>
6. (補足)

※2009.2.19.のNEC 平成20年度 図書館研究会でのパネラーとしての発表を元にしています。
「次世代OPACの可能性
－大学図書館界の現況の紹介、ベンダー様との協同、及び情報交換の枠組み」

1.　自己紹介

- 久保山　健　（くぼやま　たけし）
- 大阪府 寝屋川市 在住
- 現在の所属：　大阪大学 情報推進部
  情報基盤課　図書館システム担当（約4年）
- 経歴：　図書受入、雑誌全般、図書の契約、和漢書の目録
- 大阪大学附属図書館が使用している業務システム：　NEC　LICSU-Web
  (*)契約期間：2007.3.～2012.3.

大阪大學

２．　次世代OPACって?

- 以下のものが代表例
  - シンプルな検索ボックス
  - 絞り込み機能
  - 関連語の表示
  - 適合度によるソート
  - コメント、レビュー機能（利用者参加型機能）
  - リコメンド機能
- けれど、特定の機能などを指すものではない

※1年前の本セミナー、九州会場で、九州大学図書館様からも発表あり

大阪大學

３． 海外事例 (1)

- AquaBrowser
  - 商用ソフト
  - University of Chicago
  - Queens Library, Jamaica, NY　など

３． 海外事例 (2)

- VuFind
  - オープンソース
  - National Library of Australia　など

３． 海外事例 (3)

- eXtensible Catalog
  - ・オープンソース
  - ・ロチェスター大学(USA)が中心に

大阪大學

4. 国内事例、検討状況 (1)

- 日本事務器(株)の "NeoCILIUS" （レビュー機能等）
- ・パッケージシステム
- ・東京経済大学図書館　など

大阪大學

4. 国内事例、検討状況 (2)

◆大手ベンダーの動向

- いくつかの主要大学で、システム更新が1－2年後に迫っている。そろそろ何か開発しないといけないタイミング??
- オープンソースを採用することも検討中??

大阪大學

4. 国内事例、検討状況 (3)

◆海外商用ソフト／代理店

- 個別のデモやセミナーでの紹介を行っている
- 日中韓の言語(CJK)や、NACSIS-CAT(WebCAT)のレコードフォーマットへの対応など、確実に必要な作業あり
- 対応は、早くて2009～2010年???

大阪大學

4. 国内事例、検討状況 (4)

◆大学図書館

- 一部で、情報交換や、気運を盛り上げる動き (2008年度前半)
- 個別の学習会で取り上げられつつある様子 (2008年度後半)

<<情報交換、情報共有の必要性>>

知見、製品、アイデア、事例、ノウハウ・・・

大阪大學

5. ベンダー、代理店、図書館の連携 (1)

- 図書館の業務とサービスは、、、パッケージシステム及びベンダーの導入支援がないと成り立たない

- あとからカスタマイズするより、より良いパッケージシステム

大阪大學

5. ベンダー、代理店、図書館の連携 (2)

◆国立大学図書館のシステム更新の流れ

・約5年毎に更新。仕様書に基づく入札

・パッケージシステムを導入

・パッケージシステムで実現できない機能は、「カスタマイズ」

当然、その分、コストに跳ね返る

大阪大學

5. ベンダー、代理店、図書館の連携 (3)

◆意見交換から要求の最大公約数化

・次世代OPACは新しいトピックなので、今後の意見交換を期待

・その枠組みが図書館システム全般にも広がる可能性はないのか

・外部サービス(ERMSなど)を活用する際の枠組みにも活用できるか

大阪大學

5. ベンダー、代理店、図書館の連携 (4)

- 「オープンソース化」

ーオープンソースを大学側が自力で導入することについては疑問あり(人材、人員、時間の観点)

ーベンダーのサポート付きなら、あり得る

ー商売として成り立つものでないとベンダーもやる気が出ない?

結果として弱体化? ／利益が出る構造も必要?

大阪大學

5. ベンダー、代理店、図書館の連携 (5)

◆「仕様の共通化」

〇すぐには難しい(当然)

〇個別図書館での業務の標準化

　→効率化　というのは概ね共通理解

複数図書館で標準化→効率化

　→サービス向上　へ

〇ユーザ会や横の連携

→パッケージシステムへの反映

→(結果として)パッケージに合わせた業務

→(結果として)仕様の共通化

5. ベンダー、代理店、図書館の連携 (6)

◆「仕様の共通化」

〇カナダ・オンタリオ州の3つの大学図書館による、システムの「共用」の例もあるが.

. .

〇議論していく中で何か出てきてほしい

大阪大學

5. ベンダー、代理店、図書館の連携 (6)

◆「仕様の共通化」

●具体的手段

●国立系の機関は、“入札”の仕組みとどう折り合いを付けるのか

ー5年レンタルの制約。長期的にベンダーとお付き合いできない制度

5. ベンダー、代理店、図書館の連携 (7)

◆「仕様の共通化」

(参考)

・先週(6/17)東京で同じような話題がありました。

林賢紀氏

「OPACと図書館システムの「次」を目指して」

http://researchmap.jp/tzhaya/資料公開/

東京西地区大学図書館協議会2009年度研修セミナー

「図書館システムを再び考える−ベンダーと図書館サイドが望むシステム機能−」

大阪大學

(補足)次世代OPAC関連

- 「ユーザ目線」で作るには（ARGブログ版から）
- 次世代OPAC情報交換用メーリングリスト

http://dwsv.library.osaka-u.ac.jp/pitt_report/nxopac.html

- セミナー等で取り上げていただきたい

システム・ベンダーさんとどのように協同できるか。

大阪大學

(補足.2)いくつかの「10年後」

- OPACは現役
  - ・Googleや電子資料の興隆はあるにしても
  - ・館内資料へのナビゲート機能はなくならない（と思う）
  - ・カード目録的なOPACは、もう無い
  - ・けれど、館内資料の情報が、”One of Some” になっているかもしれない（特に大学業界）

大阪大學

(補足.3)いくつかの「10年後」

- 「司書」という言葉は死語!?
  - 少なくとも「ノスタルジックな司書」という概念は消えている
  - 比重が、Webでのユーザナビゲーション、サービス業的発想、周辺の知識やノウハウなどに移っている

  #そんな「司書」なら、用語は何でもいい

ご静聴ありがとうございました。

続きはディスカッションで

大阪大學